

京都保健会新入職員研修

91名の新しい仲間を迎える

4月3日、新入職員研修を88名の参加で、近畿高等看護専門学校で開催しました。はじめに、三浦理事長から「京都保健会は、金ある者は金を、物ある者は物を」と民医連の診療所が建設され、1956年に法人設立

性を追求するプロになってほしい。それは、1つ目は患者さんの利益追求、2つ目は患者さんの自立の支援、3つ目は社会責任を果たせる医療人を目指してほしい」と歓迎挨拶を受けました。

午前からの研修は、「法人の概要と役割」を高梨専務が、「就業規則と個人情報保護法」を田中副専務が、「感染防止教育」を中

央病院曾根師長が講義。

午後からは、「ここから元気・しごとに満足」と題し、メンタルサポート京都・清水氏の講義とグループワークを行いました。参加者からは、「自分たちで考えながらの講義だったので、とても分かりやすかった」、「身体だけでなく、心の健康管理や上手くストレスを分散させることも必要」、「コミュニケーション・仲間づくりを進めながらプラス思考で」等の感想が寄せられました。

研修最後は、グループ毎に私たちの医療・福祉宣言をつくりました。KJ法で約1時間、初対面にもかかわらず見事に宣言が出来上がりました。グループ全員が壇上上がり報告、楽しく写真撮影をしました。



中央病院 大腸肛門センター開設

中央病院

京都民医連中央病院 事務次長 根石明彦

京都民医連中央病院では、4月より臨床肛門分野の第一人者である松田直樹医師（日本大腸肛門病学会認定大腸肛門病専門医、大腸肛門病指導医）を常勤スタッフに迎え、大腸肛門病センターを開設しました。今まで太子道診療所で行われていた肛門外来も中央病院に移設し、大腸と肛門分野にかかわるさまざまな疾患の診療を専門的に行います。

不調を感じても、病院に行くのをためらいがちなのが大腸や肛門の疾患です。高齢者・認知症の方に多い便秘、失禁、脱肛、直腸脱の治療や内痔核に対する硬化療法、肛門括約筋障害などにも対応します。常に肛門が気になったり、長年続く頑固な肛門直腸痛に対して、肛門括約筋内圧検査、超音波による肛門内括約筋計測・括約筋張力・伸展力測定なども行います。

松田医師のほか鈴木卓医師、川島市郎医師、岡本亮医師の4名で毎日の午前診療を交代で担当します。

また、健診はもちろん、お尻のスキンケア、便秘対策などの啓蒙活動にも積極的に取り組んでいきます。



▲写真は4月14日 大腸肛門病センター 開設記念講演会での 松田医師講演部分です